



MEDICAL NEWS

ホームページアドレス <http://hospital.kikkoman.co.jp/>

緑内障について

眼科部長 尾羽澤 実

緑内障は、視神経が障害され視野が狭くなる病気で、放置すると失明する危険があります。40歳以上の20人に1人が発症し、中途失明原因の常に上位にある疾患です。

緑内障は、大まかに分類して、原発開放隅角緑内障、原発閉塞隅角緑内障と続発緑内障の3つに分類することができます。この分類は、眼圧（眼球の内圧）の上昇するメカニズムによって分類されています。眼圧の上昇は、緑内障の進行に大きく影響しますので、その原因を確認することは、治療方針を決める上で大変重要なこととなります。眼圧は、隅角と呼ばれる角膜（黒目）と虹彩（茶目）の隙間にある組織の状態に影響されます。なぜなら隅角は、房水（眼内の水分）を眼外へ排出する下水口としての役割をしているからです。

原発開放隅角緑内障は、隅角が広い、つまり角膜と虹彩の隙間が広い状態の緑内障です。眼圧上昇のメカニズムは未だに不明です。また、眼圧が上昇していなくても緑内障による視野障害が進行するタイプもあり、正常眼圧緑内障と呼ばれています。原発開放隅角緑内障は、日本人の緑内障の約8割を占めています。

原発閉塞隅角緑内障は、隅角が狭い、つまり角膜と虹彩の隙間が狭いことが眼圧上昇の原因となる緑内障です。眼圧上昇のメカニズムがはっきりしているため、治療方針は確立されています。

隅角が狭くても眼圧上昇がなければ、正常眼と変わりありませんが、ある日突然眼圧が上昇し、眼痛、充血、視力低下に加えて頭痛、嘔気を伴い発症する急性緑内障発作を起こすことがあります。この発作が生じた場合には、早急に治療を行わないと一晩で失明する可能性があります。急性緑内障発作を予防する方法として、レーザー虹彩切断術と白内障手術が有効です。

続発緑内障は、ブドウ膜炎等の眼疾患の影響により二次的に眼圧上昇が生じた病態を言います。眼圧上昇の程度が強いことが多く、充血や視力低下等の自覚症状も生じやすいので、比較的診断されやすいです。原疾患の治療により眼圧は正常に戻りますが、眼圧が正常化するまでは原発開放隅角緑内障に準じた治療を行います。

このように、ただ「緑内障」と言っても、その種類によって治療方針や経過が大きく異なります。一部の薬の添付文書に「緑内障」の方には禁忌と書かれていて、薬の使用を中止してしま

う方もありますが、このように書かれている薬の多くは、「原発閉塞隅角緑内障」に対しての注意であり、「原発開放隅角緑内障」の方には多くの場合問題ありません。緑内障について質問したり説明を聞いたりするときは、どのタイプの緑内障のことかを理解する必要があります。

ここからは「原発開放隅角緑内障」の治療について説明します。以後は便宜上、「原発開放隅角緑内障」を「緑内障」とします。

緑内障の治療目的は、視野障害進行の抑制です。これは、点眼治療でも手術でも同じで、視野障害の改善は期待できません。どんなにまじめに通院して治療を続けていても自覚症状の改善を実感することがなく、人によっては、治療を途中でやめてしまう方もおります。個人的意見ですが、緑内障の治療には、根気と緑内障に関する理解が重要です。

緑内障の進行を抑制する最も効果的な治療は、眼圧（眼球の内圧）を下げることです。眼圧を下げる方法としては、点眼治療、レーザー治療そして手術がありますが、侵襲の少ない点眼治療が第一選択となります。点眼治療で



眼圧下降効果が充分でないときは、レーザー治療もしくは手術を選択することになります。

眼圧を下げると言っても、どこまで眼圧を下げるのかを決める必要があります。これを目標眼圧と言います。眼圧の正常値は20 mmHg以下ですが、20 mmHg以下に下げれば良いと言っわけではありません。眼圧が正常であるにもかかわらず、緑内障になったり視野障害が進行したりする場合があります。眼圧が正常で緑内障になるタイプを正常眼圧緑内障と言いますが、日本人の緑内障の約9割はこのタイプです。よって、眼圧が正常であるかどうかは、緑内障の治療において、あまり重要ではありません。

緑内障の治療で大切なことは、無治療時の眼圧検査や視野検査のデータをしっかりと取っておくことです。特に無治療時の眼圧は、ベースライン眼圧と呼び、目標眼圧を決めたり治療効果を判断したりするのに必要です。ベースライン眼圧は、一人一人の基準となる眼圧なので、別々の日に3回以上眼圧を測定し、その平均値を取ります。正常眼圧緑内障では、ベースライン眼圧が決まると、その20%〜30%低い眼圧を目標眼圧とします。高眼圧緑内障であれば、視野検査の結果から進行具合を確認し、初期は19 mmHg以下、中期は16 mmHg以下、後期は14 mmHg以下を目標眼圧とします。目標眼圧が

決まったところで、点眼治療から開始していきます。

点眼治療を開始したら、定期的に眼圧測定を行い、目標眼圧に達しているかを確認し、達していないようなら点眼薬の種類を変えたり増やしたりして眼圧下降を試みます。しかし、目標眼圧はあくまでも目標です。目標眼圧に達していても視野障害が進行する場合や、目標眼圧に達していなくても視野障害の進行を抑えられている場合があります。そこで、定期的に視野検査を行って、視野障害の進行の有無を判断し、目標眼圧の修正を行います。

視野検査で視野障害の進行の有無を判断するには、定期的に5回以上測定してから判断するのが望ましいですが、視野検査を6ヶ月に一回の頻度で行うとすると、5回行うのに2年半の歳月がかかります。視野検査の結果で、かなり進行していたり初診時の眼圧があまりに高かったりするような時は、悠長なことを言っではいられません。基本的には治療に根気が必要な疾患です。自覚症状の乏しい疾患で根気良く治療を続けることは想像以上に大変ですが、自分の視野検査や眼圧測定の経時変化を知ることが、治療を継続する意欲につながるものと考えます。当院では、視野検査や眼圧測定の結果をなるべく丁寧に説明するよう心がけております。

院長コラム

「なあにちゃん口コモ体操」

～運動の医学的効用～

キッコマン総合病院・院長 久保田 芳郎

およそ2400年前、古代ギリシャ時代の「医学の父」と呼ばれるヒポクラテスは「運動をすれば生体内の余分なものが燃焼される。食事がどんなに上質で適量でも、運動には代えられない。」と記しています。この考え方は、今日、運動と生体の反応を科学的に分析できるようになって実証されつつあります。

最近の研究では、運動量が少ないと最大酸素摂取量（いわゆる体力）が低くなり、血圧が上昇してくることがわかっています。逆に高血圧の人が軽い運動、すなわちその人の最大酸素摂取量の半分程度の運動をすることで、血圧を下げる効果があることもわかってきました。この軽い運動とは自覚的に「楽である」から「ややきつい」と感じる程度、つまりちょっと速めの散歩程度で十分なのです。激しい運動はかえって身体に良くありません。適度な運動は、血圧を下げるだけでなく、中性脂肪を減らして善玉コレステロールを増やし、また、糖尿病や癌などさまざまな慢性疾患の予

防にも役立ちます。

当院では落合直之外科系センター長の指導のもと、キッコマンのキャラクターである「なあにちゃん口コモ体操」を考案し、毎朝8時30分に入院患者さんに体操してもらっています。この「なあにちゃん口コモ体操」には日本整形外科学会が提唱する口コモティブシンドロームを予防するための全身運動の要素が取り入れられております。

日本は、高齢社会となりました。寝たきりや介護が必要な状態になるのを避けたいとは誰もが共通に思っているはずですが。人間の尊厳を保ち、動ける喜びを何時までも維持するには、日頃の「身体活動」と「栄養」が重要です。みなさまの身体状況に合わせて朝のひととき、ご一緒に体操をいたしましょう。そして「文藝春秋スペシャル」で紹介された当院の「日本一美味しい病院食」で健康寿命を延ばしましょう！

常勤医師紹介

外科



院長(外科)
久保田 芳郎

専門分野 消化器外科
大腸肛門外科

東京大学1974年卒業

医学博士、東京理科大学薬学部客員教授、日本大腸肛門病学会評議員・指導医・専門医、日本消化器病学会関東支部会評議員、日本人間ドック学会評議員・指導医・専門医、認定医、日本外科学会認定医、日本消化器外科学会指導医・認定医、日本消化器病学会指導医・専門医、日本医師会認定健康スポーツ医、日本医師会認定産業医

外科部長

齋藤 晋祐



専門分野 消化器外科、大腸外科

筑波大学1992年卒業

医学博士
日本外科学会専門医
日本癌治療学会がん治療認定医
日本癌治療学会がん治療教育暫定医

外科医長

相馬 大介



専門分野 消化器一般外科

群馬大学1999年卒業

医学博士、日本外科学会専門医・認定医、TNT認定医、マンモグラフィ検診制度管理中央委員会読影認定医、日本がん治療認定医、日本消化管学会暫定胃腸科専門医

外科医師

仁禮 貴子



専門分野 乳腺外科
消化器外科

信州大学2004年卒業

日本外科学会専門医
マンモグラフィ検診制度管理中央委員会読影認定医
癌治療認定医
日本消化管学会胃腸科専門医

外科医師

近藤 祐地



専門分野 大腸外科

旭川医科大学2005年卒業

内科



院長代理・診療部長
三上 繁

専門分野 消化器内科
肝胆膵内科

千葉大学1986年卒業

医学博士、東京理科大学薬学部客員教授、日本胆道学会評議員、日本肝臓学会東部会評議員、日本消化器病学会関東支部会評議員、日本消化器病学会指導医・専門医、日本肝臓学会指導医・専門医、日本超音波医学会指導医・専門医、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医、日本人間ドック学会指導医・専門医、認定医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本感染症学会ICD(感染制御医師)、日本医師会認定産業医、日本医師会認定健康スポーツ医、全日本病院協会保健指導士

内科部長

秋本 政秀



専門分野 消化器内科
肝胆膵内科

千葉大学1990年卒業

医学博士
日本内科学会認定医
日本消化器病学会専門医
日本肝臓学会専門医

循環器内科部長

大野 則彦



専門分野 循環器内科

山形大学1993年卒業

医学博士
日本内科学会総合内科専門医
日本循環器学会専門医
日本医師会認定産業医

消化器内科部長

清水 史郎



専門分野 消化器内科

富山医科薬科大学1995年卒業

医学博士
日本感染症学会ICD(感染制御医師)
日本医師会認定産業医
日本臨床検査医学会臨床検査管理医

生活習慣病内科部長

佐々木 信和



専門分野 生活習慣病一般

島根医科大学(現島根大学)1997年卒業

日本内科学会認定医、日本抗加齢医学会専門医、日本医師会認定産業医、日本補充代替医療学会常任委員、日本補充代替医療学会認定学医、日本人間ドック学会専門医認定医、日本糖尿病協会療養指導医、日本臨床栄養学会認定臨床栄養医、全日本病院協会保健指導士、日本健康促進医学会評議員

内科



木股 伸恒

専門分野 虚血性心疾患
末梢血管疾患

日本医科2003年卒業

日本内科学会認定医
日本循環器学会専門医
心血管インターベンション治療学会認定医

内科医師

大西 和彦



専門分野 消化器内科

昭和大学2002年卒業

医学博士
日本内科学会認定医
日本消化器病学会専門医
日本肝臓学会専門医
日本消化管学会胃腸科認定医

内科医師

丸野 綾子



専門分野 消化器内科

大分大学2010年卒業

日本内科学会認定医

整形外科

副院長・整形外科部長

田中 利和



専門分野 整形外科一般
上肢機能外科

旭川医科大学1985年卒業

医学博士、日本手外科学会代議員、日本計測学会評議員、東日本整形外科学会評議員、日本整形外科学会専門医、日本手外科学会専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本体育協会認定スポーツ医、日本整形外科学会認定リハビリテーション医、日本医師会認定産業医

外科系センター長

落合 直之



専門分野 整形外科一般
上肢機能外科

東京大学1973年卒業

医学博士、日本整形外科学会副理事長・専門医、日本手外科学会元理事長・専門医、日本臨床スポーツ医学会評議員、日本肘関節学会名誉会員、日本末梢神経学会名誉会員、日本創外固定・骨延長学会名誉会員

リハビリテーション科部長

野内 隆治



専門分野 整形外科一般
足の外科

信州大学1996年卒業

医学博士
日本整形外科学会専門医

整形外科

整形外科医師

神山 翔



専門分野 整形外科一般

筑波大学2007年卒業

日本整形外科学会専門医

整形外科医師

岡野 英理子



専門分野 整形外科一般

順天堂大学2010年卒業

泌尿器科

泌尿器科部長

大村 稔



専門分野 泌尿器科一般

東京医科歯科大学1996年卒業

産婦人科

産婦人科・小児科センター長

宇田川 秀雄



専門分野 産婦人科一般

東京医科歯科大学1974年卒業

医学博士
日本産科婦人科学会専門医
母体保護法指定医
日本産科婦人科学会専門医

産婦人科医長

高嶺 智子



専門分野 産婦人科一般

山形大学2002年卒業

日本産科婦人科学会専門医

産婦人科医師

石山 俊輔



専門分野 産婦人科一般

群馬大学2008年卒業

日本産科婦人科学会専門医

小児科

小児科部長

竹内 正人



専門分野 小児科一般

名古屋市立大学1997年卒業

日本小児科学会小児科専門医

小児科医師

細井 洋平



専門分野 小児科一般

近畿大学2007年卒業

日本小児科学会小児科専門医

眼科

眼科部長

尾羽澤 実



専門分野 眼科一般
緑内障

東海大学1994年卒業

医学博士
日本眼科学会専門医

麻酔科

麻酔科部長

市原 靖子



専門分野 臨床麻酔
悪性高熱症

東邦大学1990年卒業

医学博士
埼玉医科大学客員准教授
日本麻酔科学会専門医・指導医
麻酔科標榜医
日本ペインクリニック学会専門医



外来診療担当表

2014年11月時点

診 察 科	診 療 案 内	月	火	水	木	金	土	
内 科	午前	総 合／消化器	三 上	清 水	秋 本	清 水	三 上	秋 本
		大 西				大 西	丸 野	
		生 活 習 慣 病	佐 々 木	土 屋	佐 々 木	塚 越	高 野	佐 々 木
		呼 吸 器			吉 田 正	鈴 木	柳 下	
	腎 臓	太田（火曜日または土曜日）						
	循 環 器	大 野	大 野	大 野	久 保 田	木 股	木 股	
	リウマチ／膠原病			住 田		横 澤		
午後	消 化 器	清 水		大 西	今 村※	丸 野		
	生 活 習 慣 病		佐 々 木※			高 野		
	呼 吸 器			吉 田 正	鈴 木	柳 下		
	禁 煙 外 来			佐 々 木※			佐 々 木※	
外 科	午前	総 合	久 保 田	相 馬	齋 藤	相 馬	久 保 田	仁 禮
	仁 禮	近 藤	川 口		田 中	近 藤		
午後	ス ト ー マ 外 来			相 馬※				
乳 腺 外 来							仁 禮※	
婦 人 科	午前	総 合	高 嶺		高 嶺	石 山	林	石 山
	午後	総 合	石 山		石 山	宇田川(月回 林)	宇 田 川	
産 科	午前	総 合	石 山		石 山	渡 邊	宇 田 川	高 嶺
	午後	総 合	宇 田 川	交 代 制	高 嶺	石 山	高 嶺	
小 児 科	午前	総 合	細 井	細 井	竹 内	竹 内	細 井	交 代 制
		竹 内			細 井			原則第3のみ※神経 初診不可
	午後	総 合 (月・水・金 当日予約可)	竹 内※		竹 内※	第1・2・3・5週 赤木 第4週 交代制	細 井※	
		予 防 接 種	竹内・細井※	細 井※	竹 内※	交代制※	細 井※	交代制※
		元 気 な 子		健診優先(竹内)※				交代制※
専 門 外 来				循環器※ 第1・2・3・5週		原則第4のみ※内分 初診不可		
夕方	総 合		常勤医師■		常勤医師■			
整 形 外 科	午前	総 合	落 合	神 山	田 中	野 内	落 合	野 内
		田 中	神 岡	神 山	筑波大医師	田 中	神 山	
		大 西			大西第2・4週のみ	岡 野	谷 口	
	午後	専 門 外 来		神 山	膝関節外来 吉岡※(第2・4週)	足の外科 野内※ 脊椎外来 酒井※(第2・4週) 股関節外来 菅合※(第3週)	手の外科 田 中	
リハビリテーション科	午後			野 内				
耳 鼻 咽 喉 科	午前	総 合		大 村	谷 口	山 本	山 口	第1・3・5週 石垣 第2・4週 遠藤
	午後	総 合		大 村	谷 口▲	山 本	山 口	
眼 科	午前	総 合	尾 羽 澤	都 築	尾 羽 澤	交 代 制	尾 羽 澤	尾 羽 澤
	午後			都 築	河 野			
	夕方	総 合			尾羽澤※	篠 田※		
皮 膚 科	午後	総 合			宇 賀 神		宗 次	
泌 尿 器 科	午前	総 合	大 村※	大 村	大 村	大 村※	大 村	大 村
	午後	総 合					大 村	
脳神経外科	午前	総 合		武 井		山 本		

● 全科で予約診療を予定しています。お電話でのご予約受付時間は月曜日～土曜日（休診日除く）の午前9時から午後4時まで。

ご予約専用電話番号 **04-7123-5901** (直通)

受診の際は診察券をお忘れなく、月初めの受診日には保険証をお持ちください。

ご予約受付は、診察ご希望日の前日までとなっております。

● 外来受付時間 午前8時～午前11時、午後1時から午後3時（皮膚科は午後1時～午後2時）

小児科の午後の診療は木曜日以外完全予約制となりますが、月・水・金は当日予約ができます。

（小児科のみ一般診察は午後2時30分から）

● ■印の小児科夕方診察は火曜日と木曜日（常勤医師による診察）です。ご来院前に電話でご確認ください。（TEL 04-7123-5911）

● 都合により診察担当医師が変更になる場合があります。

● ※印の診察は、完全予約制です。

● ▲印の診察は、手術のため休診となる場合があります。

循環器・消化器病検査担当表

2014年11月1日現在

検査名		月	火	水	木	金	土
胃内視鏡	午前	齋藤/相馬/近藤	三上/丸野	清水/大西/丸野	大西/仁禮	秋本/丸野	清水
腹部超音波	午前	秋本/清水/丸野	秋本/大西	相馬/仁禮/近藤	三上/丸野	相馬/仁禮/近藤	三上/大西
乳腺・甲状腺超音波	午前						
乳腺超音波	午後						仁禮
頸動脈超音波	午後	担当検査技師	齋藤/相馬/近藤	担当検査技師	担当検査技師	担当検査技師	月2または3回 [※] 担当検査技師
大腸内視鏡	午後	三上/秋本/大西/丸野		秋本/清水/丸野	相馬/仁禮	田中	
心臓超音波	午後	大野		大野		大野	
トレッドミル運動負荷検査	午後		木股				
心臓カテーテル検査	午後				木股		

※頸動脈超音波の土曜日の検査は、月によって実施日に変動があります。何週目の土曜日かは、診察時にお問い合わせ下さい。

専門外来(予約)・特別診療のお知らせ

詳しくは各外来または予約係にお尋ね下さい。

2014年11月1日現在

●外 科	乳腺外来 (土曜日午後) ストーマ外来 (水曜日午後)	担当: 仁禮貴子 担当: 相馬大介・大村 稔 鈴木麻子 (皮膚・排泄ケア認定看護師)
●整形外科	手の外科外来 (金曜日午後) 足の外科外来 (木曜日午後) 膝関節外来 (第2・4水曜日午後) 脊椎外来 (第2・4木曜日午後) 股関節外来 (第3木曜日午後)	担当: 田中利和 担当: 野内隆治 担当: 吉岡友和 担当: 酒井晋介 担当: 菅谷 久 診察日は都合により変更になる場合があります。
●小児科	元気な子外来 (火曜日午後・土曜日午後) 循環器外来 (第1・2・3・5木曜日午後) 神経外来 (第3土曜日午前) 内分泌外来 (第4土曜日午後) 予防接種 (月曜日～土曜日午後) [※] 土曜日午後の予防接種は原則小学生以上のお子様を対象です。	担当: 小児科医師 ※元気な子外来では乳幼児健診・慢性疾患の経過観察・育児教育相談・うつらない病気等の診察を行います。 担当: 赤木美智男 担当: 広瀬宏之 担当: 磯島 豪
●内 科	禁煙外来 (水曜日午後・土曜日午後)	担当: 佐々木信和
内科、循環器内科、外科、 ●整形外科、眼科、泌尿器科 産婦人科	セカンドオピニオン外来	担当: 対象診療科の医師 当外来をご利用される時の注意事項、申込み方法は、下記URLにてご確認ください。 http://hospital.kikkoman.co.jp/gairai/senmon.html

2014・2015年 キッコーマン総合病院カレンダー

■は休診日

2014 11 November 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23/30 24 25 26 27 28 29	12 December 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	
2015 1 January 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	2 February 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	

おもな非常勤外来担当医師紹介

内科

<p>腎臓内科 (火曜日または土曜日)</p> <p>おおた よしあき 太田 義章</p> <p>専門分野 腎臓内科</p> <p>千葉大学1978年卒業</p> <p>医学博士 日本内科学会認定医 日本腎臓病学会専門医 日本医師会認定産業医</p>	<p>内科 (木曜日午後)</p> <p>いまむら たかあき 今村 隆明</p> <p>専門分野 消化器内科</p> <p>千葉大学1996年卒業</p> <p>医学博士 日本内科学会認定内科専門医、 米国内科学会正会員、米国内消化器 病学会正会員、日本消化器病学会 専門医、日本肝臓学会専門医</p>	<p>生活習慣病内科 (火曜日午前)</p> <p>つちや たかふみ 土屋 天文</p> <p>専門分野 糖尿病、内分泌代謝</p> <p>群馬大学1995年卒業</p> <p>医学博士 日本糖尿病学会専門医 日本内科学会認定医</p>	<p>生活習慣病内科 (木曜日午前)</p> <p>つかごし のあ 塚越 乃亜</p> <p>専門分野 糖尿病、内分泌代謝</p> <p>獨協医科大学2000年卒業</p> <p>日本内科学会認定医 日本糖尿病学会専門医</p>	<p>生活習慣病内科 (金曜日午前・午後)</p> <p>たかの のりよし 高野 倫嘉</p> <p>専門分野 生活習慣病一般</p> <p>聖マリアンナ医科大学2011年卒業</p>
---	---	--	--	--

内科

<p>循環器内科 (木曜日午前)</p> <p>くぼた たけゆき 久保田 健之</p> <p>専門分野 循環器一般</p> <p>東京慈恵会医科大学2000年卒業</p> <p>日本循環器学会専門医 日本内科学会認定医</p>	<p>呼吸器内科 (木曜日午前・午後)</p> <p>すずき しょうへい 鈴木 洋平</p> <p>専門分野 呼吸器内科</p> <p>順天堂大学2006年卒業</p> <p>日本内科学会認定医</p>	<p>呼吸器内科 (水曜日午前・午後)</p> <p>よしだ まさひろ 吉田 正宏</p> <p>専門分野 呼吸器内科</p> <p>東京慈恵会医科大学2007年卒業</p>	<p>呼吸器内科 (金曜日午前・午後)</p> <p>やぎした しげひろ 柳下 薫寛</p> <p>専門分野 呼吸器内科</p> <p>北海道大学2007年卒業</p> <p>日本内科学会認定医</p>	<p>リウマチ・膠原病内科 (水曜日午前)</p> <p>すみだ たかゆき 住田 孝之</p> <p>専門分野 膠原病・リウマチ</p> <p>千葉大学1979年卒業</p> <p>医学博士、筑波大学教授内科(膠原病・リウマチ・ア レルギー)、筑波大学附属病院副院長、日本リウマチ 学会指導医・専門医、日本内科学会認定医、日本リウ マチ学会理事、日本シエーグリーン症候群学会理事長、 日本臨床免疫学会理事、日本免疫学会評議員、日本 リウマチ学会Modern Rheumatology 編集長</p>
---	---	---	---	---

内科

整形外科

<p>リウマチ・膠原病内科 (金曜日午前)</p> <p>よこさわ まさひろ 横澤 将宏</p> <p>専門分野 膠原病・リウマチ</p> <p>旭川医科大学2008年卒業</p> <p>日本内科学会認定医</p>	<p>整形外科 (土曜日月1回)</p> <p>やまざき まさし 山崎 正志</p> <p>専門分野 脊椎外科</p> <p>千葉大学1983年卒業</p> <p>医学博士、筑波大学教授(整形外科)、日本 整形外科学会専門医、日本整形外科学 会認定脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病 学会脊椎脊髄外科指導医、日本整形外科学 会代議員、日本脊椎脊髄外科学会評議員</p>	<p>脊椎外来 (第2・4週木曜日午後)</p> <p>さかい しんすけ 酒井 晋介</p> <p>専門分野 脊椎外科</p> <p>筑波大学1997年卒業</p> <p>医学博士 日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医</p>	<p>整形外科、膝関節外来 (木曜日午前、第2・4水曜日午後)</p> <p>よしおか ともかず 吉岡 友和</p> <p>専門分野 膝関節外科</p> <p>筑波大学1999年卒業</p> <p>医学博士 日本整形外科学会専門医 日本体育協会公認スポーツドクター</p>	<p>股関節外来 (第3木曜日午後)</p> <p>すがや ひさし 菅谷 久</p> <p>専門分野 股関節外科</p> <p>筑波大学2004年卒業</p>
---	---	---	--	---

外科

眼科

<p>外科 (水曜日午前)</p> <p>かわぐち よねえい 川口 米栄</p> <p>専門分野 内視鏡外科、肝胆膵外科 乳腺外科</p> <p>東京大学1987年卒業</p> <p>日本肝胆膵外科学会評議員、日本 外科学会指導医・専門医、認定医、 日本消化器外科学会認定医、日本 消化器外科学会消化器がん外科治 療認定医、マンモグラフィ検診精度 管理中央委員会統制認定医</p>	<p>外科 (金曜日午前)</p> <p>たなか じゅんいちろう 田中 潤一郎</p> <p>専門分野 大腸肛門外科 消化器外科</p> <p>東京大学1999年卒業</p> <p>医学博士 日本外科学会専門医</p>	<p>(木曜日午後)</p> <p>しのだ けい 篠田 啓</p> <p>専門分野 網膜硝子体、視覚生理</p> <p>慶應義塾大学1990年卒業</p> <p>医学博士 日本眼科学会指導医・専門医</p>	<p>(木曜日午前)</p> <p>はなぞの げん 花園 元</p> <p>専門分野 眼科一般、視覚生理</p> <p>慶應義塾大学2000年卒業</p> <p>医学博士 日本眼科学会専門医 日本抗加齢医学会専門医</p>	<p>(火曜日午前・午後)</p> <p>つづき きょうこ 都築 恭子</p> <p>専門分野 眼科一般</p> <p>東京女子医科大学1998年卒業</p> <p>日本眼科学会専門医</p>
--	---	---	---	--

眼科

脳神経外科

皮膚科

<p>(水曜日午前)</p> <p>こうの けいこ 河野 慶子</p> <p>専門分野 眼科一般</p> <p>東海大学2000年卒業</p> <p>日本眼科学会専門医</p>	<p>(木曜日午前)</p> <p>やまもと ようへい 山本 洋平</p> <p>専門分野 脳神経外科一般、 脳腫瘍</p> <p>東京慈恵会医科大学2006年卒業</p> <p>日本脳神経外科学会専門医</p>	<p>(火曜日午前)</p> <p>たけい じゅん 武井 淳</p> <p>専門分野 脳神経外科一般</p> <p>筑波大学2010年卒業</p>	<p>(水曜日午後)</p> <p>うがじん つかさ 宇賀神 つかさ</p> <p>専門分野 皮膚免疫</p> <p>東京医科歯科大学2001年卒業</p> <p>医学博士 皮膚科専門医</p>	<p>(金曜日午後)</p> <p>むねつぐ たかし 宗次 太吉</p> <p>専門分野 皮膚アレルギー</p> <p>愛媛大学2005年卒業</p> <p>皮膚科専門医</p>
--	--	---	---	---

耳鼻咽喉科

小児科

産婦人科

<p>(水曜日午前・午後)</p> <p>やぐち ゆういちろう 谷口 雄一郎</p> <p>専門分野 中耳疾患、 鼻副鼻腔疾患</p> <p>東京慈恵会医科大学1996年卒業</p> <p>医学博士 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本睡眠学会認定医</p>	<p>(第1・2・3・5木曜日午後)</p> <p>あかぎ みちお 赤木 美智男</p> <p>専門分野 小児循環器病学、 医学教育学</p> <p>東京大学1979年卒業</p> <p>医学博士 杏林大学医学教育学教授 日本小児科学会小児科専門医</p>	<p>婦人科 (金曜日午前、木曜日午後月1回)</p> <p>はやし まさとし 林 雅敏</p> <p>専門分野 更年期医学、生殖医学、 悪性腫瘍学、周産期医学</p> <p>東京医科歯科大学1975年卒業</p> <p>医学博士、獨協医科大学越谷病院院長、産 婦人科教授、日本母性衛生学会常務理事、 日本妊婦高血圧学会理事、日本女性心身 医学会理事、埼玉県産婦人科医会理事、 日本婦人科腫瘍学会評議員、日本更年期 医学会評議員、日本産婦人科・新生児血 液学会評議員、日本臨床細胞学会評議員、 悪性腫瘍化学療法研究機構(JGOG)会員、 日本産科婦人科学会専門医</p>	<p>産科 (木曜日午前)</p> <p>わたなべ あや 渡邊 史</p> <p>専門分野 産婦人科一般、 メンタルヘルス</p> <p>浜松医科大学2007年卒業</p> <p>日本産科婦人科学会専門医</p>
--	--	---	--



糖尿病2泊3日 短期入院のご案内

生活習慣病である糖尿病の患者さんは、『糖尿病が疑われる人』が約740万人、『予備軍に当たる人』『糖尿病の可能性が否定できない人』を含めると、成人の6.3人に1人にあたる約1,620万人になると言われています。

糖尿病は、知らず知らずのうちに進行し、心筋梗塞や脳梗塞などの命を脅かす病気を併発する可能性が高い病気です。しかし、生活習慣を改善し必要な治療を行うことで血糖値を良好に保ち、体質改善ができれば、健康な人と変わらない生活を維持することもできます。それが糖尿病治療の目標です。

こんな方が参加されています

金土日の週末を利用して生活習慣を見直してみませんか？

- 健康診断で『糖尿病になりかけている』と指摘された方
- 糖尿病治療の開始前後の方
- 糖尿病の治療についてより詳しく知りたい方

サポートチームの紹介

サポートチームには、糖尿病療養指導士がいます！！

- 医師…外来では難しい、24時間蓄尿検査や糖尿病合併症の検査などを通し、患者さんに適した治療方法を考えていきます。
- 管理栄養士…3日間の食事記録をもとに食事アドバイスをを行い、改善できることを一緒に探します。ご自宅での簡単な減塩方法がわかる『食べ比べ体験』も行っています。
- 薬剤師…糖尿病薬の種類やご自身が内服している薬について理解を深めていただきます。薬が安全に・十分に効果を発揮するようアドバイスをいたします。
- 理学療法士…現在の身体機能の評価を行い、自身の身体状態を認識してもらいます。また、その方に合った運動負荷量を設定し有効な運動の提案・指導を行います。

当院では、糖尿病短期入院で理学療法士からの指導も受けられます！！

- 看護師…パンフレットやDVDを活用して糖尿病や合併症についてお話しします。日常生活振り返りシート・生活改善シートを使用し『これはどうしたらいいの？』を一緒に考え、より良い生活習慣改善のためのサポートをします。

体験者された方からの声

糖尿病について今まで考えが甘かったことを思い知らされたと同時に、改善に全力で取り組む気持ちが持てたことを心より感謝いたします。

65歳の私には、カリキュラムについて行くのが大変でしたが、教育入院をさせていただき今は感謝・感謝です。

有酸素運動について勘違いしていたことがわかり勉強になりました。

食事もおいしく、ハンバーグの食べ比べにより塩分量の違いがわかって工夫次第でおいしく食べられることがわかりました。

ご興味のある方は、生活習慣病内科外来または、主治医にお気軽にご相談ください。

糖尿病短期入院での検査とは

検査科 臨床検査技師 石川 恭子

糖尿病短期入院では、血液検査で血糖値やHbA1c値を測定したり、肝臓や腎臓の機能なども調べます。その他にさまざまな検査を実施いたします。

- 心電図や心臓超音波など、心臓の病気を見つける検査
- 頸動脈超音波、ABI/PWV、中心血圧、FMD検査など、血管の状態（動脈硬化）を調べる検査
- 自律神経検査
- 末梢神経の機能をみる検査
- 睡眠時無呼吸検査（場合によって）

など、盛りだくさんのメニューとなっております。

検査結果は現在の体の状態を知り、これからの治療や食事・運動療法をする上で必要な資料となります。健康診断で糖尿病予備軍もしくは疑いがあると指摘された方は、お気軽にご相談ください。



頸動脈エコー



ABI

お願い

病棟でのDVD視聴学習や栄養指導・運動指導などたくさんのスケジュールの合間、限られた時間のなかでスムーズに検査が進められるようにしたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

編集後記

柏から自転車で通勤を始めて2年が経ちました。体重は8kg減少し、健康診断の血液データの数値も以前は問題がありましたが、現在は正常となりました。普段、運動を指導する立場ですが、運動の効果を自分の身体で証明することができました。

これから寒くなる季節ですが、寒いと基礎代謝が高くなり身体は痩せやすい季節となります。食べ過ぎに注意し、積極的に運動して健康的な身体を手に入れましょう。

リハビリテーションセンター理学療法士 池田達也

スタッフ募集

視能訓練士・放射線技師正社員

看護師・看護助手・視能訓練士・リハビリ助手・医事課パート社員

■ ご応募は

キッコーマン総合病院 採用

検索

<http://hospital.kikkoman.co.jp/recruit/index.html>

発行 キッコーマン総合病院広報委員会

〒278-0005 千葉県野田市宮崎100番地

TEL.04-7123-5911 (代表)

FAX.04-7123-5920